

第7班

中世景観復元学の試み —北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—

(1) 共同研究員名

研究代表者：田上繁

共同研究員：佐野賢治 内田青蔵 昆政明 三笠友洋

研究協力者：若宮幸一 萬井良大（2017年度～2018年度） 石井和帆（2019年度）

(2) 研究目的

本研究では、非文字資料の一研究領域である景観・環境の研究として、中世ないしは近世初期ごろまで遡ると考えられる北九州市若松区の惣牟田集落の景観の実態調査及び復元に向けての共同研究を進める。調査対象とする惣牟田集落には、現在でも中世の典型的な谷戸田の地形をはじめ、茅葺屋根を持つ家屋（現在はトタンで覆われている）や家屋を支える古い形の石積みなどが現存しており、中世の景観を復元するための研究対象として必要不可欠な条件が整っている。

さらに、惣牟田集落には、黒田孝（よし）高（たか）（如水・官兵衛）の二十四騎の一人である竹森石見次貞の子清左衛門貞幸の墓石があり、また、若松で最高峰の石峯山を祀る「石峯神社」へ通ずる鳥居や参道が設けられ、集落に沿った別の山道を登り切った三叉路には「山神」や他の石仏が祀られているなど、集落と信仰が結びついた景観が保持されている。そのため、地形、家屋、信仰などを対象とする学際的な研究が可能であり、非文字資料研究に中世景観復元学という新たなジャンルを構築することができる。

(3) 活動経過（目的達成のための方法、各年度の研究・調査経過、成果の公開状況等）

○2017年度

- ・2017年4月29日～5月5日 歴史班・民俗班・建築班による合同調査
- ・2017年8月2日～8月6日 旧小石村高崎家文書の写真撮影
- ・2017年10月27日～10月30日 次回の調査の段取りと関連文書の収集
- ・そのほか、福岡県立図書館にて黒田官兵衛の二十四騎の一人である竹森氏に関する文献と資料のコピーサービスを受けた。

○ 2018 年度

- ・ 2018 年 4 月 26 日～ 5 月 16 日 歴史班による現地調査
- ・ 2018 年 5 月 21 日～ 6 月 13 日 同上
- ・ 2018 年 6 月 20 日～ 7 月 2 日 同上
- ・ 2018 年 7 月 17 日～ 8 月 1 日 同上
- ・ 2018 年 8 月 12 日～ 8 月 30 日 同上
- ・ 2018 年 9 月 6 日～ 9 月 13 日 同上
- ・ 2018 年 9 月 18 日～ 10 月 7 日 同上
- ・ 2018 年 10 月 13 日～ 10 月 16 日 同上
- ・ 2018 年 11 月 1 日～ 11 月 8 日 同上
- ・ 2018 年 12 月 20 日～ 12 月 30 日 同上
- ・ 2019 年 1 月 27 日～ 2 月 11 日 同上
- ・ 2019 年 2 月 5 日 博多の妙楽寺と金龍寺の墓石を視察
- ・ 2019 年 3 月 19 日～ 3 月 31 日 歴史班による現地調査
- ・ そのほか、福岡県立図書館、福岡市総合図書館にて黒田官兵衛の二十四騎の一人である竹森氏に関する文献と資料の閲覧を行った。

○ 2019 年度

1. 惣牟田に関する調査

①歴史班による耕地の地形、用水路等の調査

- ・ 2019 年 4 月 1 日～ 4 月 5 日 歴史班による現地調査
- ・ 2019 年 4 月 4 日 折尾の地方法務局にて惣牟田の地籍図調査
- ・ 2019 年 4 月 26 日～ 5 月 16 日 歴史班による現地調査
- ・ 2019 年 5 月 21 日～ 6 月 18 日 同上
- ・ 2019 年 6 月 25 日～ 7 月 11 日 同上
- ・ 2019 年 7 月 18 日～ 8 月 26 日 同上
- ・ 2019 年 9 月 6 日～ 10 月 21 日 同上
- ・ 2019 年 11 月 9 日～ 12 月 20 日 同上
- ・ 2020 年 1 月 18 日～ 2 月 5 日 同上
- ・ 2020 年 3 月 11 日～ 3 月 17 日 同上

②民俗班による石造物調査（惣牟田）

- ・ 2019 年 6 月 26 日～ 6 月 29 日 惣牟田に残る石造物の調査を行った。とくに、竹森氏に関連する「殿様墓」の墓守の系譜を有する家の墓石群を調査した。

③専門家（金子浩之氏・松原典明氏）による石垣調査

- ・ 2019 年 6 月 6 日～ 6 月 8 日 外部の石垣の専門家に依頼して、惣牟田の「殿様の屋敷跡」「花畑（花壇）」と伝承される 2 か所の石垣の調査を実施した。併せて、近隣の竹林の中に残る戦国武将大庭隠岐守の屋敷跡

(別宅)とされる石垣の調査を行った。

- ・2020年3月12日～3月14日 外部の石垣の専門家により、石峯神社の棟札、石峯山頂上の石垣の調査を実施した。

2. 関連地域における調査(北九州市若松区・宗像市)

①竹森氏関係の墓石調査

- ・2019年4月4日 吉祥寺(若松)において竹森清左衛門貞幸の墓石の有無を調査した。

②宗像市における竹森清左衛門貞幸の動向調査

- ・2019年7月23日 竹森氏が若松小石に住居する前に閑居した旧池田村の調査のため宗像市を訪ねた。

(4) 研究成果(研究果物・獲得された知見、収集資料の解題等)

1. 中世景観の復元

①棚田の調査(耕作地の形状、水利の権利関係等)、手作業による田植えと稲刈り、日照りや台風被害、害虫・害獣への対策など、実践で得た体験そのものを資料化する取り組みを行った。

②福岡藩の大庄屋を務めた旧小石村(現若松区小石本村)の高崎家所蔵文書を調査し、小石村の絵図や慶長7年(1602)の検地帳の分析を行った。その結果、田畑とも惣牟田の耕地の小字と思われる名称があらわれることから、江戸開府の慶長8年の前年にすでに惣牟田の田畑が存在していた可能性が強まった。

2. 黒田官兵衛の重臣竹森氏の動向

①竹森石見次貞(黒田官兵衛の二十四騎の一人)

・竹森石見次貞の墓石が孫貞右衛門三安(つまり、竹森清左衛門貞幸の嫡男)の墓石とともに博多の妙楽寺に存在することを知りえた。元来、この2基の墓石は博多の金龍寺に建立されていたが、江戸時代に妙楽寺へ移設されたという経緯がある。

②竹森清左衛門貞幸(竹森石見次貞の嫡男)

・竹森清左衛門貞幸の供養塔が若松の旧小石村(惣牟田も同村の一部)に存在するのは知られていたが、貞幸の動向についてはほとんど未解明のままであった。文献によると、「若松吉祥寺に葬る」とあり、同寺を調査したが、現時点では墓石の確認はできなかった。吉祥寺の本寺は金龍寺であり、両寺の関係から吉祥寺に葬られたのかも知れない。

・「竹森家記」「吉田家伝録」などの史料から、清左衛門貞幸の後妻が織田信長の8男信吉の娘(つまり、信長の孫娘)であることが分かった。なお、前妻は黒田二十四騎の一人吉田氏の娘であり、同人が40歳で他界したため、後妻を迎えたものである。織田家菩提寺の大徳寺塔頭総見院にある信長の孫娘の供養塔には、清左衛門貞幸の妻を意味する文字が刻まれている。

・清左衛門貞幸の子息2人が紀州藩の家臣に仕官している事実を突きとめた。信長の孫娘については、「寛政重修諸家譜」に「竹森清左衛門某が妻となりのち紀州家につかふ」と記され、その紀州藩との

関係を通して家臣に取り立てられたものと考えられる。

- ・江戸城や大坂城の普請に福岡藩の奉行として携わった事実が判明した。

③竹森新右衛門利友（石見次貞の8男、清左衛門貞幸の弟）

- ・惣牟田集落入り口の竹林の中に現存する「新右衛門抱山」と刻銘された石碑が、新右衛門利友に関するものであると確認できた。福岡藩（黒田藩）の家臣として同地を所領していたことと関連するのは間違いない。

④竹森九右衛門政直（新右衛門利友の末裔）

- ・「殿様墓」と伝えられる惣牟田の墓石群が、宝暦、明和期（江戸中後期）の九右衛門政直の家族のものであることが解明された。

⑤竹森孫作（竹森本家の末裔）

- ・石見次貞から連なる竹森家直系の幕末期の当主であり、万延元年（1860）の「分限帖」には750石の家臣と記されている。

- ・幕末から現在に至る竹森家の系図については、竹森家の縁戚である高林和夫氏が妙楽寺の過去帳などを調査して確認された。

以上は、惣牟田と関係の深い戦国武将竹森氏とその末裔に関する内容を示した。

3. 石造物の分析

①惣牟田に現存する「殿様墓」

- ・「竹森九右衛門政直」と刻まれた墓石をはじめ、同人の家族が葬られている墓石群の調査により、それらの墓石群が竹森石見次貞の8男新右衛門利友（清左衛門貞幸の弟）の末裔のものであることが分かった。

この墓石群のある場所は「道也」と称され、清左衛門貞幸の戒名「性屋道也居士」と何らかの関係があるものと思われる。

②「殿様墓」の墓守の墓石群

- ・「殿様墓」の近くに残る墓石群が、「殿様墓」の墓守のものであることが判明した。

③惣牟田に現存する石碑

- ・「新右衛門抱山」と刻銘され惣牟田集落の入り口にある石碑を調査した結果、清左衛門貞幸の弟竹森新右衛門利友に関するものであることを知りえた。

④惣牟田集落内に2か所存在する「十三仏」

- ・2か所の「十三仏」については、現在、その性格を分析中である。

4. 石垣の分析

①「殿様の屋敷跡」の石垣

- ・「殿様の屋敷跡」と伝えられる場所の石垣については、専門家による調査結果から、素人の手ではなく、石工によって積まれた石垣であると判断された。

②「花壇（花畑）」の石垣

- ・上記「殿様の屋敷跡」の近くにある「花壇（花畑）」といわれる場所については、両者は一体のも

のと考えられる。

③戦国武将大庭隠岐守の屋敷跡の石垣

・惣牟田集落からほど近い竹林に存在する大庭隠岐守の屋敷跡の石垣は、その存在を早くから知られていたが、専門家による調査により、中世に遡る石垣であることが確認できた。

④石峯山山頂の石垣

・石峯山山頂の石垣の調査結果から、現時点では、戦国時代まで遡るものではないとの意見が専門家によりなされた。

5. 石峯神社の創建と移設年代の確定

①石峯神社の創建者

・石峯神社の創建が竹森氏の関係者であることが判明した。『遠賀郡誌』には、「宝暦五年乙亥十月竹森主仙清原昌直の嫡男八兵衛清原利勝の建立せるものなり。」と記され、石峯神社が宝暦5年（1755）の創建で、建立者が「竹森主仙清原昌直の嫡男利勝」であったと伝える。

②石峯神社の移設の時期

・棟札の調査により、石峯山山頂から惣牟田集落の近くの山中に遷した時期が、明治22年（1889）の市制・町村制施行の年であったと確認できた。

6. 建築物の分析

①茅葺屋根の家屋

・惣牟田集落内に一棟だけ現存する茅葺屋根の家屋を調査し、図面を作成して惣牟田の家屋の特徴を分析した。

7. 調査、研究の内容を伝える新聞記事

①西日本新聞

・「黒田二十四騎の一人竹森次貞子孫の墓が若松に」（2018年4月8日付）

②毎日新聞

・「中世の耕地景観復元を」（2019年7月14日付）

8. 報告書

①「ニューズレター」

・「北九州市若松区惣牟田集落の中世景観に関する調査報告」『非文字資料研究センター News Letter』No. 41、2019年3月刊。

・「中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—」（2019年2月16日〈土〉）開催、非文字資料研究センター10周年記念シンポジウム、『非文字資料研究センター News Letter』No. 42、2019年9月刊。

(5) 今後の課題と展望（自己点検・評価）

1. 独立刊行物の公刊

本研究は、研究課題に「中世景観復元学の試み」とあるように、非文字資料研究の一つの柱である景観・環境の研究領域において、歴史学、民俗学、建築学の異なる研究分野の共同研究により中世景観の復元の可能性を追究しようとしたものである。北九州市若松の惣牟田集落を対象として調査、研究を進めたが、学際的研究であるがゆえに、限られた資料を突き合わせることで、これまで未解明であった史実を明らかにしえた。その成果を報告書として独立の刊行物にまとめて公刊する予定である。

2. 資料の収集と保存

本研究の調査の過程で収集した諸資料を整理、保存する態勢を整え、公開可能な資料については公開を目指す。各分野の主な収集資料は、以下の通りである。

- ・歴史班 「竹森家記」、「吉田家伝録」、「慶長七年小石村検地帳」及び関係文書（大庄屋の高崎家文書）、「小石村絵図」、「寛政重修諸家譜」、「系図纂要」、「遠賀郡誌」、「南紀徳川史」、「惣牟田の耕地図（明治12年）」、「石峯神社棟札」ほか。
- ・民俗班 竹森清左衛門貞幸の供養塔（旧小石村）、新右衛門利友に関する石碑（惣牟田）、竹森九右衛門政直の家族の墓石群（惣牟田の「殿様墓」）、「殿様の屋敷跡」及び「花壇（花畑）」と伝えられる場所の石垣（惣牟田）、戦国武将大庭隠岐守の屋敷跡の石垣（惣牟田に近接する竹林の中）、竹森石見次貞と孫の貞右衛門三安の墓石（博多の妙楽寺）、織田信長の孫娘の供養塔（京都の大徳寺塔頭総見院）、十三仏（惣牟田内の2か所）ほか。
- ・建築班 茅葺屋根の家屋の図面（惣牟田内の1棟）ほか。

3. 今後の課題

本研究は、当時の文献史料が皆無に等しい状況下において、北九州市若松区の惣牟田集落を分析の対象とし、中世、ないしは、近世初期の耕地景観の様相と、その背後にある歴史を解明しようとする試験的な研究である。そこでは、戦国期から近世初期に活動した黒田二十四騎の一人竹森石見次貞の嫡男竹森清左衛門貞幸と惣牟田集落の関わり合いを中軸に据えることで、その輪郭なりが見えてくるのではないかと予測した。そのためには、まず、惣牟田の耕地がその時期にすでに存在していた事実を証明する必要がある。さらに、旧小石村に現存する清左衛門貞幸の供養碑や、惣牟田（惣牟田は小石村の一小字）にある弟竹森新右衛門利友に関する石碑、「殿様墓」と伝承される竹森氏末裔の竹森九右衛門の家族墓石群などとの関連を詳細に追究しなければならない。

耕地開発の時期については、慶長7年（1602）の「小石村検地帳」に登載されている田畑の小字に惣牟田を想起させる名称があることから接近できるものと思われる。また、竹森氏との関係では、惣牟田や旧小石村に現存する上述の各種石造物や、近隣に残る戦国武将大庭隠岐守の屋敷跡の石垣の存在などが多くの示唆を与えてくれる。また、惣牟田の郷社である石峯神社の創建（宝暦5年〈1755〉）が竹森姓を有する「竹森主仙清原昌直の嫡男八兵衛清原利勝」であった点なども大きなヒントとなる。なお、「清原」については、「吉田家伝録」に竹森清左衛門貞幸の祖父が「清原」を名乗る姫路の社人

であったと記しているので、石峯神社を建立した人物が竹森氏と深い関係を有した者であったのは疑いない。

このように、惣牟田と竹森氏との関係はきわめて密接なものがあり、両者の関係をさらに掘り下げ、非文字資料研究の有効性の観点からも、景観の分析を通して歴史のダイナミズムを読み解く作業をさらに進めていくのが今後の大きな課題の一つとなる。

加えて、そうした重要な歴史を背後にもつ惣牟田の景観の保存に関する課題がある。棚田の景観を今に残す惣牟田も、他の多くの農業地域と同様、農業の衰退、住人の減少と高齢化、休耕地の増大など過疎化が急速に進んでいる。稀有な歴史事象を有する惣牟田を単なる研究対象としてだけでなく、農地の有効利用による農業の復活などを通して景観を保存する、つまり、文化と生業が一体化して保存できる方策を模索する必要があると思われる。

4. 講演会の開催

これまで、2019年2月16日に開催された非文字資料研究センター10周年記念シンポジウムにおいて、調査の過程で知りえた研究成果の一部を報告した。今後は、最終的な成果を報告会や講演会の形で大学、及び、現地にて開催する計画を立てる。